The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭言 : 専門看護師の養成に向けて
Author(s)	早川, 和生
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1996, 2(1), p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56852
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言

専門看護師の養成に向けて

我が国の看護界における新しい課題として専門看護師（CNS：Clinical Nurse specialist）の養成が大きくクローズアップされている。CNSの養成は、元々米国において1960年代後半から1970年代前半に看護学大学院の新設が急増した頃に本格化した潮流である。

我が国では、米国に遅れること約30年で現在徐々に日本看護協会の主導で動き出しつつある段階に入った。現在、次々と新設が続く看護学系大学は、間もなく次々と大学院の新設ラッシュへと続いていく。これら大学院の修士課程における教育の目玉がCNSの養成となっている。日本の看護界もやっと国際的な仲間入りをしつつあると言えよう。筆者は約20年前に米国の看護学大学院でCNS養成の修士コースを修了したが、そのカリキュラムの濃密さと効率性には驚嘆させられた。

CNS養成は、例えるならば専門医養成のためのレジデント教育（Resident Training）に似ている。日本では米国に比し医師のレジデント・トレーニングが余り効率的でないのと同様、我が国の既存の看護学大学院におけるCNS教育は残念ながら極めて貧弱な現状にあると判断せざるを得ない。しかし、米国の看護学を変革し、臨床水準を大幅にレベルアップさせた原動力となったのはCNS達であったことから、我が国でも質の高い本格的なCNS養成が是非とも必要となっている。

CNS養成は、大学病院のような高度先進医療施設のみを使っていたのでは不可能であり、長期療養型病院や地域保健施設など多彩な施設群の協力があって初めて可能となる。また、それら種々の施設において日々臨床実践の中で専門技能を磨いている各種専門職と学生指導者（教員）が密に連係せねばCNS養成は困難である。CNS養成のためには、それに相応する「研修施設群（CNS教育施設群）」の形成がまず必要となる。大阪大学医学部保健学科看護学専攻が計画中の大学院設置にあたって是非とも諸関連機関の御協力が得られるようお願いしたい。

尚、本学看護学の大学院はCNS養成にとどまらず、更に博士課程において看護科学者（Nurse Scientist）の養成も大きく視野に入れている。

平成8年3月

大阪大学医学部保健学科

看護学専攻教授　早川和生